

鶴亀

一名 月宮殿

シテ 皇帝

ワキ 大臣

ツレ（謡なし） 亀

ツレ（謡なし） 鶴

地は 唐土

季は 正月

シテサシ

「夫青陽の春になれば。四季の節会の事はじめ。

地

「不老門にて日月の。ひかりを天子の叡覧にて。

シテ

「百官卿相に至るまで。袖をつらね踵をついで。

地

「其数一億百余人。

シテ

「拝をすゝむる万戸の声。

地

「一同に拝する其音は。

シテ

「天に響きて。

地

「おびたゝし。

歌

「庭の砂は金銀の。く。玉をつらねて敷妙の。

五百重の錦や瑠璃の局。碑礫の行桁瑪瑙の橋。池

の汀の鶴亀は。蓬萊山もよそならず。君のめぐみ

ぞ有難き。く。

ワキ詞

「いかに奏聞申すべき事の候。毎年の嘉例の如く。

鶴亀を舞はせられ。其後月宮殿にて舞楽を奏せら

れうずるにて候。

シテ詞

「ともかくもはからひ候へ。

地 「亀は万年の齡を経。鶴も千代をやかさぬらん。

（中の舞）

歌 「千代のためしの数々に。く。何を引かまし姫小

松の。緑の亀も舞ひ遊べば。丹頂の鶴も一千年の。

齡を君に授け奉り。庭上に参向申しければ。君も

御感の余りにや。舞樂を奏して舞ひ給ふ。（樂）

歌

「月宮殿の白衣の袂。月宮殿の白衣の袂の。色々妙なる花の袖。秋は時雨の紅葉の羽袖。冬はさえ行

く雪の袂を。翩へす衣も薄紫の。雲の上人の舞樂の声々に。霓裳羽衣の曲をなせば。山河草木国土ゆたかに。千代万代と舞ひ給へば。官人駕輿丁御輿を早め。君の齡も長生殿に。く。還御なるこそめでたけれ。